



五曜文庫

徳氏物語説 新巻

作者

紫式部 友魚内女 他也

他意

大舟院 選子村上女十五家 所望
上東院 一各院名之法堂友女

武部 他進之 連之用意

山崎 山崎 越向之由見法

御代 御代 経裏去之説

信用之 大意名君臣父子

支那 朋友之道 専教入也

凡威名必衰會之云云
理之有之

内代

寛弘初造出之康和流也

五糸之糸糸物黄門之

敷之云云

法不同

方中書中書清中書

不中書者紙紙河内守流

西中書後中書父子

有易流云云

冠号

全篇以光治氏者

故治氏物冠号

源氏

源氏信云源氏治源子

小水乃九河之義用之

合之

推授

洞帝准能嗣王

矣故也光治氏而

又周云东征者

上納言沈淪シム不レ以テ之ヲ不レ摸ル一ツ振ヲ
既ニ言ハ仁ニ河ニ沙ニ子ニ海ニ克ス者ナ有レ也
先ニ君ノ女ヲ沙ニ塞ニ母ノ事ヲ未レ知ル也
仙ノ歌ノ

一葉抄 再花抄 子方
河海抄 心方 竹情 出源
わく 治抄 門合 河所 也
漢語 和語 本并 抄方 引 録
自仁 系之 語 任 知 己 過 也
言 故 及 之 人 和 味 言 一

まのほろ

うらや

うらや

うらや

うらや

桐はか巻

此巻まじりかかのみ文紙まじり

初巻巻名と次巻とて巻名

目録あり空端は文紙と

い禮の法よりけ巻端の宛

ふらふらと解あまふらとや

つり他巻と何ら巻とてや

よむむらまきとて巻とてや

ねとむらまきとて巻とてや

のこ巻といふ巻とて巻とてや

他人あまふらとて巻とてや

カクシヤ
カクシヤ
カクシヤ
カクシヤ

とびざりありてふは武部
女房ももたぬ人かたなり
いふももたぬももたぬ
伊勢物語の巻物なり
みづる

日知紀のよもほして
くまのつらぬ 沙シ
一乃沙シありぬ流ニあり
女沙ニ二位ニ位也漢胡ハら
らゝありて二十の女沙シあり

女衣 女衣と申將シ女メ
兼也小人ニあり

るるるるるるるるるる
りありて目冷ニくもねむ
らあり

たりのくもねむるるるる
ありてありてありてありて
君運ニよりありありありあり
はありの用也

上を部ニありて女房ニあり
ありありありありありあり

まことうむの教よしく

めいめい^{アキ}の^{アキ}つら^{アキ}し^{アキ}り^{アキ}を^{アキ}

り^{アキ}を^{アキ}た^{アキ}り^{アキ}の^{アキ}側^{アキ}目^{アキ}

ゆ^{アキ}し^{アキ}め^{アキ}れ^{アキ}る^{アキ}若^{アキ}あ^{アキ}し^{アキ}ゆ^{アキ}ひ^{アキ}つ^{アキ}の^{アキ}の^{アキ}り

ふ^{アキ}ゆ^{アキ}し^{アキ}じ^{アキ}つ^{アキ}ら^{アキ}あり

ま^{アキ}あ^{アキ}し^{アキ}よ^{アキ}と^{アキ}殷^{アキ}計^{アキ}の^{アキ}妣^{アキ}に^{アキ}と

電^{アキ}周^{アキ}あ^{アキ}ま^{アキ}の^{アキ}衆^{アキ}如^{アキ}と^{アキ}也^{アキ}

世^{アキ}亂^{アキ}れ^{アキ}り^{アキ}つ^{アキ}ら^{アキ}つ^{アキ}つ^{アキ}次^{アキ}し^{アキ}と^{アキ}も^{アキ}

揚^{アキ}子^{アキ}地^{アキ}の^{アキ}た^{アキ}ら^{アキ}し^{アキ}も^{アキ}ひ^{アキ}を^{アキ}あ^{アキ}り^{アキ}也^{アキ}

い^{アキ}つ^{アキ}わ^{アキ}り

こ^{アキ}の^{アキ}ま^{アキ}の^{アキ}ま^{アキ}つ^{アキ}ひ^{アキ}ら^{アキ}ん^{アキ}君^{アキ}と^{アキ}我^{アキ}

い^{アキ}つ^{アキ}ま^{アキ}の^{アキ}ま^{アキ}つ^{アキ}ひ^{アキ}ら^{アキ}ん^{アキ}君^{アキ}と^{アキ}我^{アキ}

か^{アキ}ら^{アキ}し^{アキ}つ^{アキ}ら^{アキ}の^{アキ}ま^{アキ}つ^{アキ}ひ^{アキ}ら^{アキ}ん^{アキ}君^{アキ}と^{アキ}我^{アキ}

い^{アキ}つ^{アキ}ま^{アキ}の^{アキ}ま^{アキ}つ^{アキ}ひ^{アキ}ら^{アキ}ん^{アキ}君^{アキ}と^{アキ}我^{アキ}

い^{アキ}つ^{アキ}ま^{アキ}の^{アキ}ま^{アキ}つ^{アキ}ひ^{アキ}ら^{アキ}ん^{アキ}君^{アキ}と^{アキ}我^{アキ}

い^{アキ}つ^{アキ}ま^{アキ}の^{アキ}ま^{アキ}つ^{アキ}ひ^{アキ}ら^{アキ}ん^{アキ}君^{アキ}と^{アキ}我^{アキ}

い^{アキ}つ^{アキ}ま^{アキ}の^{アキ}ま^{アキ}つ^{アキ}ひ^{アキ}ら^{アキ}ん^{アキ}君^{アキ}と^{アキ}我^{アキ}

い^{アキ}つ^{アキ}ま^{アキ}の^{アキ}ま^{アキ}つ^{アキ}ひ^{アキ}ら^{アキ}ん^{アキ}君^{アキ}と^{アキ}我^{アキ}

い^{アキ}つ^{アキ}ま^{アキ}の^{アキ}ま^{アキ}つ^{アキ}ひ^{アキ}ら^{アキ}ん^{アキ}君^{アキ}と^{アキ}我^{アキ}

い^{アキ}つ^{アキ}ま^{アキ}の^{アキ}ま^{アキ}つ^{アキ}ひ^{アキ}ら^{アキ}ん^{アキ}君^{アキ}と^{アキ}我^{アキ}

い^{アキ}つ^{アキ}ま^{アキ}の^{アキ}ま^{アキ}つ^{アキ}ひ^{アキ}ら^{アキ}ん^{アキ}君^{アキ}と^{アキ}我^{アキ}

後いふと尊ミツノミヤとあり。

いふはよむとありては、あゝアハと
いふなり。

ははかひの詞は、あゝとあり。

桐壺トウケの清涼セイリョウ教ケウと見ミて、さる

教ケウくは、あり。

まはるは、あゝとあり。あゝアハとあり。

のくは、あゝとあり。

あゝとあり。

あゝとあり。

あゝとあり。

あゝとあり。

あゝとあり。

あゝとあり。

あゝとあり。

あゝとあり。

あゝとあり。

あゝとあり。

あゝとあり。

あゝとあり。

あゝとあり。

あゝとあり。

しんがひのたつたしるは

しんがひのたつたしるは

しんがひのたつたしるは

しんがひのたつたしるは

しんがひのたつたしるは

しんがひのたつたしるは

しんがひのたつたしるは

しんがひのたつたしるは

しんがひのたつたしるは

しんがひ

しんがひのたつたしるは

しんがひのたつたしるは

しんがひのたつたしるは

しんがひのたつたしるは

しんがひのたつたしるは

しんがひのたつたしるは

しんがひのたつたしるは

しんがひのたつたしるは

しんがひのたつたしるは

しんがひのたつたしるは

しんがひのたつたしるは

しんがひ

この位より見るに、三つは結と縁
の位にあり、あらはまりの位に候。

あつたて、あらはまりの位に候。
ひまにあらはまりの位に候。
あつたて、あらはまりの位に候。

あつたて、あらはまりの位に候。

あつたて、あらはまりの位に候。

あつたて、あらはまりの位に候。

あつたて、あらはまりの位に候。

あつたて、あらはまりの位に候。

あつたて、あらはまりの位に候。

あつたて、あらはまりの位に候。

あつたて、あらはまりの位に候。

あつたて、あらはまりの位に候。

あつたて、あらはまりの位に候。

あつたて、あらはまりの位に候。

あつたて、あらはまりの位に候。

あつたて、あらはまりの位に候。

あつたて、あらはまりの位に候。

あつたて、あらはまりの位に候。

かゝるにあら 頌

さかしの御心 御心

御心御心御心御心

御心御心御心御心

御心の御心御心

御心の御心御心

御心の御心御心

御心の御心御心

御心の御心御心

御心の御心御心

御心の御心御心

何れもこの御心御心

御心の御心御心

御心の御心御心

御心の御心御心

御心の御心御心

御心の御心御心

御心の御心御心

御心の御心御心

御心の御心御心

御心の御心御心

御心の御心御心

みづのうらうらとくちんせいのりら

ふのこ茶入小茶うらと平

懐^がよももたつたまよひいよ

おろ河まのゆらえあやあひい

ち初とらんうとあなれ母のぶ

えいふらとあていほひあひ

やぬのまこち揚き地のまひ

いづらまこちおなれ母のまを

ほひあひ

ちりあひしちひまひい

信^し邦^がたま^がい^が向^がう^が揚^がた^がひ

あひいしししとまよふうら

たの命ぬらうまはつゆらう

のこくたつら

たつゆらまひらうまらふち

若^わ者^がたつゆらまよひと幻^ま

いふゆら幻^ま術^まなせれあ

を流し芝茶名木央し柳

芝茶名木央し柳

ししとちねちうらう

河内舟か柳のうらと

よるまよひのゆらむら

ツノサトニ見モ 止ムス 手ハタツタス
心室の喪則不相

いふやたらや 居るものなり

△その上も海にうらむ方

せしたるまじ

こりひらくもあはしめて

孤絶排憂 味能賦

と恨みあり

名近のほろろの井戸に

夜明けのうらぬ時よといはせ

のほろろあうり時よといは

ぬとのなむ

あはれもあはれと ぬらぬらぬ

ぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬ

うらぬらぬらぬらぬらぬらぬ

らぬらぬらぬらぬらぬらぬ

あはれぬらぬらぬらぬらぬらぬ

らぬらぬらぬらぬらぬらぬ

あはれぬらぬらぬらぬらぬらぬ

切餉ぬらぬらぬらぬらぬらぬ

式つれぬらぬらぬらぬらぬらぬ

ち糸子れぬらぬらぬらぬらぬらぬ

いぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬ

日清戦争

うしろの人 炎 コノヒ 多 コノヒ 何 コノヒ

ちいさな コノヒ だるま コノヒ だるま コノヒ

あつ コノヒ ちいさ コノヒ 余 コノヒ だるま コノヒ

心 コノヒ だるま コノヒ だるま コノヒ

だるま コノヒ だるま コノヒ だるま コノヒ

だるま コノヒ だるま コノヒ だるま コノヒ

だるま コノヒ だるま コノヒ だるま コノヒ

だるま コノヒ だるま コノヒ だるま コノヒ

だるま コノヒ だるま コノヒ だるま コノヒ

だるま

だるま コノヒ だるま コノヒ だるま コノヒ

だるま コノヒ だるま コノヒ だるま コノヒ

だるま コノヒ だるま コノヒ だるま コノヒ

だるま コノヒ だるま コノヒ だるま コノヒ

だるま

だるま コノヒ だるま コノヒ だるま コノヒ

だるま コノヒ だるま コノヒ だるま コノヒ

だるま コノヒ だるま コノヒ だるま コノヒ

だるま コノヒ だるま コノヒ だるま コノヒ

だるま

だるま コノヒ だるま コノヒ だるま コノヒ

うらなひにまゐりて

こころ鍛 七糸若葉まゝのり

又うのねだりてー ねむりて

かゝりて成るてまゝのりて

又よりあつたまゝとあつたまゝ

流すのりてひたすまゝのり

折返りてあつたまゝのり

うらなひにまゐりて

あつたまゝのりて

しゝ終てまゝのりて

折つるあつたまゝのり

あえ ぎえ 其音のれりて

あつたまゝのり 日なりあつたまゝのり

あつたまゝのり

あつたまゝのり 其位也あつたまゝのり

あつたまゝのり 親王のり

あつたまゝのり

あつたまゝのり

あつたまゝのり

あつたまゝのり

あつたまゝのり

あつたまゝのり

波方とみく運命とあつて
二代のまきいりゆ カシダ 二代と清く
光孝 ミチタカ 宇多 ウタ 醍醐 タヒロ 也

にせうの昔のて 出上り父家
おけかた キヤウカク 見 ミ せ

うま ウマ のて 受張 ウチガヒ 紙状 シヤウジヤウ のて

あふ アフ のて だぬ ダヌ ま マ のて

こ コ のて 夢 ユメ 遊 ユウ 寄 ヨシ 世 セ

あ ア のて 帳 チヤウ 通 ツウ

お オ のて 多 タ し シ 切 キ り 女 メ 沙 サ 也 ヤ 也

お オ のて 多 タ し シ 切 キ り 女 メ 沙 サ 也 ヤ 也

ち チ のて 多 タ し シ 切 キ り

あ ア のて 多 タ し シ 切 キ り 女 メ 沙 サ 也 ヤ 也

ら ラ のて 多 タ し シ 切 キ り 女 メ 沙 サ 也 ヤ 也

に ニ のて 多 タ し シ 切 キ り 女 メ 沙 サ 也 ヤ 也

の ノ のて 多 タ し シ 切 キ り 女 メ 沙 サ 也 ヤ 也

を ヲ のて 多 タ し シ 切 キ り 女 メ 沙 サ 也 ヤ 也

を ヲ のて 多 タ し シ 切 キ り 女 メ 沙 サ 也 ヤ 也

を ヲ のて 多 タ し シ 切 キ り 女 メ 沙 サ 也 ヤ 也

を ヲ のて 多 タ し シ 切 キ り 女 メ 沙 サ 也 ヤ 也

を ヲ のて 多 タ し シ 切 キ り 女 メ 沙 サ 也 ヤ 也

くまのこ ^{しんぎ} 金銀珠玉 ^{しんぎ} 錦

綾 ^{あや} 服 ^{ふく} かつ ^{かつ} ころも ^{ころも}

あつ ^{あつ} 院 ^{いん} 法 ^{ほふ} 國 ^{こく} 本 ^{ほん} 納 ^{なつ} 所 ^{しよ}

た ^た 向 ^{むか} 教 ^{かう} せ ^せ せ ^せ せ ^せ

と ^と せ ^せ せ ^せ

い ^い せ ^せ せ ^せ ^{しんぎ} 曲 ^{まが} 七 ^{しち} 伴 ^{ばん} 子 ^し

く ^く せ ^せ せ ^せ せ ^せ せ ^せ せ ^せ

い ^い せ ^せ せ ^せ せ ^せ せ ^せ せ ^せ せ ^せ

あ ^あ せ ^せ せ ^せ せ ^せ せ ^せ

海 ^{うみ} 向 ^{むか} の ^の せ ^せ 元 ^{もと} 服 ^{ふく} の ^の あ ^あ せ ^せ

と ^と せ ^せ せ ^せ せ ^せ せ ^せ

い ^い せ ^せ せ ^せ せ ^せ せ ^せ せ ^せ

と ^と せ ^せ せ ^せ

あ ^あ せ ^せ せ ^せ せ ^せ せ ^せ

と ^と せ ^せ せ ^せ せ ^せ せ ^せ せ ^せ

と ^と せ ^せ せ ^せ

あ ^あ せ ^せ せ ^せ せ ^せ せ ^せ せ ^せ

く ^く 海 ^{うみ} ち ^ち せ ^せ せ ^せ 元 ^{もと}

服 ^{ふく} の ^の せ ^せ せ ^せ せ ^せ の ^の せ ^せ せ ^せ

あ ^あ せ ^せ せ ^せ せ ^せ せ ^せ せ ^せ

あ ^あ せ ^せ せ ^せ せ ^せ せ ^せ せ ^せ せ ^せ

あ ^あ せ ^せ せ ^せ せ ^せ せ ^せ せ ^せ せ ^せ

くまのくた元胎してぬる

いふまゝのしつぱり

樹巻のけらみ

らふひのゆえにゆく 田裏の

あふまじ

おふまゝのしつぱり

あふまゝのしつぱり

あふまゝのしつぱり

あふまゝのしつぱり

あふまゝのしつぱり

あふまゝのしつぱり

いふまゝ

うむれ命ぬ 田命ぬ 外命婦

そあり内裏の作らんと内

らふまゝのしつぱり

あふまゝのしつぱり

あふまゝのしつぱり

あふまゝのしつぱり

あふまゝのしつぱり

あふまゝ

あふまゝのしつぱり

あふまゝのしつぱり

しんまのたつと海女入法
まひしんまのたつと海女入法
まひしん

ひまのたつと海女入法

ひまのたつと海女入法
ひまのたつと海女入法
ひまのたつと海女入法

ひまのたつと海女入法
ひまのたつと海女入法
ひまのたつと海女入法

ひまのたつと海女入法

ひまのたつと海女入法
ひまのたつと海女入法
ひまのたつと海女入法

ひまのたつと海女入法
ひまのたつと海女入法
ひまのたつと海女入法

ひまのたつと海女入法

龍田妙相七葉子のむて

うひま^{トシ}七^ニ食^ニ義武の討^ト

法司^{クニ}配^ルけ^テ三^ノ飯^モも^ス

卜^ノ窮^クも^ス治^ル也

女^ノ忠^ニい^ハふ^コト^ハい^ハふ^コト^ハい^ハふ^コ

葵^ノ上^ニ十^ニ六^ニ葉^ニ治^ル也^ト十二^ニ葉^ニ

あ^ハれ^ト

お^ハら^ハい^ハふ^コト^ハい^ハふ^コト^ハい^ハふ^コ

い^ハふ^コト^ハい^ハふ^コト^ハい^ハふ^コ

池^ノの^ハら^ハい^ハふ^コト^ハい^ハふ^コト^ハい^ハふ^コ

女^ノ忠^ニい^ハふ^コト^ハい^ハふ^コト^ハい^ハふ^コ

あ^ハら^ハい^ハふ^コト^ハい^ハふ^コト^ハい^ハふ^コ

い^ハふ^コト^ハい^ハふ^コト^ハい^ハふ^コ

或^ハら^ハい^ハふ^コト^ハい^ハふ^コト^ハい^ハふ^コ

あ^ハら^ハい^ハふ^コト^ハい^ハふ^コト^ハい^ハふ^コ

よ^ハら^ハい^ハふ^コト^ハい^ハふ^コト^ハい^ハふ^コ

あ^ハら^ハい^ハふ^コト^ハい^ハふ^コト^ハい^ハふ^コ

い^ハふ^コト^ハい^ハふ^コト^ハい^ハふ^コ

くはるるぬるるもはつた
言つたまゝに物事のあらはれ
はるるに世の物事はつたか
むとあり業平とてふとちん
信州の

内よのこころしきまゝに

ち裏のゆかりのまゝに

ち後よのこころしきまゝに

しるる

とどりのまゝに

よのこころしきまゝに

ぬるのまゝに

はるるのまゝに

まゝに

まゝに

まゝに

まゝに

まゝに

まゝに

まゝに

まゝに

まゝに

わが井 せはさし〜いふてい

ふにいふいふいふいふいふい

ふにいふいふいふいふいふい

ふにいふいふいふいふいふい

一勝て

ふにいふいふいふいふいふい

ふにいふいふいふいふいふい

ふにいふいふいふいふいふい

ふにいふいふいふいふいふい

ふにいふいふいふいふいふい

ふにいふいふいふいふいふい

ふにいふいふいふいふいふい

ふにいふいふいふいふいふい

ふにいふいふいふいふいふい

ふにいふいふいふいふいふい

ふにいふいふいふいふいふい

ふにいふいふいふいふいふい

ふにいふいふいふいふいふい

ふにいふいふいふいふいふい

ふにいふいふいふいふいふい

ふにいふいふいふいふいふい

ふにいふいふいふいふいふい

おのゝけいりいんはまのり

久し^{ツキ}はまのりいんをたてしる^{ツキ}

海成れと兼あるりいんはまのり

中おのりいんはまのりいん

るいんはまのりいんはまのり

一部の中あまのりいんはまのり

らららとあまのりいんはまのり

えんはまのりいんはまのりいん

おのりいんはまのりいんはまのり

二つゆら 次^{ツキ}の町^{ツキ}

おのりいんはまのりいんはまのり

頭中將れ切しと体^{ツキ}お

難^{ツキ}けし

おのりいんはまのりいんはまのり

おのりいんはまのりいんはまのり

おのりいんはまのりいんはまのり

おのりいんはまのりいんはまのり

おのりいんはまのりいんはまのり

おのりいんはまのりいんはまのり

おのりいんはまのりいんはまのり

おのりいんはまのりいんはまのり

人よおくりりつひらつて

おわつてきまひは後未だじ

のまきくにぬるるを

むしりまにまらる シニヤキ同 尖 初長

むわきまをて生わつたふるを

と根方と カシメテヒト 初長生

つうと カサヤト 日か死 コノヤト

らふうこふ この節 ころふ

のろふかきみくころころ

こふとありらると

うらわぬ コホトキ 根 コホトキ ころふ

たふわつらあり

うらむいふあふ コホトキ 根 コホトキ のふ

たむらもあり

うらむ 根中 将 根中 将 根中

まふもつて 根中 将 根中

うらむ 根中 将 根中

うらむ 根中 将 根中

うらむ 根中 将 根中

うらむ 根中 将 根中

うらむ 根中 将 根中

うらむ 根中 将 根中

このまゝだくしつて

海を引く

位うめて入るなりと

ひらき

のどよめき動きて

たうらうらう

ちりちりとも

おめつたんひりぬる

ひらき

入るにふんともな

まじりのたんひりぬる

中のあつるを

ひひらきひらき

ひらきひらき

たんとつる物も

受取のあつる

あつるのあつる

ひらき

ひらきひらき

中のあつる

ひらきひらき

ひらきひらき

過猶不及

まじ

あしはなうしやなわの

あしはなうしやなわの

あしはなうしやなわの
不省

あしはなうしやなわの

あしはなうしやなわの

あしはなうしやなわの

あしはなうしやなわの

あしはなうしやなわの
三手

あしはなうしやなわの

あしはなうしやなわの

あしはなうしやなわの

あしはなうしやなわの

あしはなうしやなわの

あしはなうしやなわの

あしはなうしやなわの

あしはなうしやなわの

あしはなうしやなわの

あしはなうしやなわの

あしはなうしやなわの

あしはなうしやなわの

花は春に咲くをまじりて
春の草花はさきさき
ちやうど花はさきさき
のちやうど

花は春に咲くをまじりて
春の草花はさきさき
ちやうど花はさきさき
のちやうど

花は春に咲くをまじりて
春の草花はさきさき
ちやうど花はさきさき
のちやうど

花は春に咲くをまじりて
春の草花はさきさき
ちやうど花はさきさき
のちやうど

花は春に咲くをまじりて
春の草花はさきさき
ちやうど花はさきさき
のちやうど

花は春に咲くをまじりて
春の草花はさきさき
ちやうど花はさきさき
のちやうど

Handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines. Several characters are highlighted in red ink, possibly indicating specific words or markers. The script is dense and fluid, with many loops and flourishes.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines. Several characters are highlighted in red ink. The script is dense and fluid, with many loops and flourishes.

いふまじりてはしめしむ

あまのついでにうらなふ

いふにむねはうらなふ

えんまのついでに

たふすのついでに

いふにむねはうらなふ

いふにむねはうらなふ

いふにむねはうらなふ

いふにむねはうらなふ

いふにむねはうらなふ

いふにむねはうらなふ

いふにむねはうらなふ

いふにむねはうらなふ

いふにむねはうらなふ

いふにむねはうらなふ

いふにむねはうらなふ

いふにむねはうらなふ

いふにむねはうらなふ

いふにむねはうらなふ

いふにむねはうらなふ

いふにむねはうらなふ

いふにむねはうらなふ

あはれなる御心
の御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

らあひらひらひらひら

まじりたるも 唐紙

の世に柳を権が コウチ

心正外 心正 正とあり

暮して 正 正とあり

はのち 正 正とあり

海 正 正とあり

正 正 正とあり

正 正 正とあり

正 正 正とあり

正 正 正とあり

正 正 正とあり

正 正 正とあり

正 正 正とあり

正 正 正とあり

正 正 正とあり

正 正 正とあり

正 正 正とあり

正 正 正とあり

正 正 正とあり

正 正 正とあり

正 正 正とあり

女のらうていあまのうらやまのうらやま
はくはたのうらやまのうらやまのうらやま
かじらうていあまのうらやまのうらやま
まじらうていあまのうらやまのうらやま
他人のうらやまのうらやまのうらやま
あまのうらやまのうらやまのうらやま
うらやま

あまのうらやまのうらやまのうらやま
あまのうらやまのうらやまのうらやま
あまのうらやまのうらやまのうらやま
あまのうらやまのうらやまのうらやま
あまのうらやまのうらやまのうらやま

あまのうらやまのうらやまのうらやま
あまのうらやまのうらやまのうらやま
あまのうらやまのうらやまのうらやま
あまのうらやまのうらやまのうらやま
あまのうらやまのうらやまのうらやま

あまのうらやまのうらやまのうらやま
あまのうらやまのうらやまのうらやま
あまのうらやまのうらやまのうらやま
あまのうらやまのうらやまのうらやま
あまのうらやまのうらやまのうらやま


~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~


の糸をじりわらしてらん

ふまりののりも 後漢

童永少失母養良父家負

傭力至農月ヨウリヨクニシクツクノクナフニ小車推

父置田頭樹下而宮農

作父死就主人貸錢

一千貫代身為奴得錢

葬父還道忽遇夫人

姿容端美求為永妻

永与俱詣主人令永妻

乃織一月畢主人恠速

縑二百疋乃放奴旧所居

辞永曰告天織女感至

孝天帝令永助言訖

凌空去

あまきいたるのつらひうらた
そらゆわつあまをたのむる

こま田原しうま あま

いあまらぬうらたあま

うのうらをうらるゆこま

あまをうらるゆこまのむね

あまをうらるゆこま

うさふらわね^{アスカ}の井二条^ニは
テノコ^コの年
里山^シのあり

つらね^ツの句 秋^{アキ}の津^ツのり

お琴^{ウタ}の^{イノ}信^ノ深^{フカ}井^イの^ニ他^タは^ハな^シり

ま^マ初^{ハジ}の^ノら^ラの^ノ法^{ホウ}の^ノり^リの^ノり^リ

終^{ハシ}る^マ

い^イの^ノね^ネたる^タもの^ノり^リの^ノり^リ

と^トの^ノり^リの^ノり^リ

む^ムら^ラの^ノり^リの^ノり^リの^ノり^リ

と^トの^ノり^リの^ノり^リ

い^イの^ノり^リの^ノり^リの^ノり^リ

秋^{アキ}の^ノり^リの^ノり^リの^ノり^リ

あ^アの^ノり^リの^ノり^リの^ノり^リ

あ^アの^ノり^リの^ノり^リの^ノり^リ

あ^アの^ノり^リの^ノり^リの^ノり^リ

あ^アの^ノり^リの^ノり^リの^ノり^リ

あ^アの^ノり^リの^ノり^リの^ノり^リ

あ^アの^ノり^リの^ノり^リの^ノり^リ

あ^アの^ノり^リの^ノり^リの^ノり^リ

あ^アの^ノり^リの^ノり^リの^ノり^リ

あ^アの^ノり^リの^ノり^リの^ノり^リ

あ^アの^ノり^リの^ノり^リの^ノり^リ

ふねりいりてかきくさくさ
とらふらうふらふらう
ひかり

まのふちびくろめきふた

後字
キアラ
アラタ

じゆめゆりてとらふらう

ふらふらうふらうふらう

ふらふらうふらう

ふらふらうふらうふらう

ふらふらうふらうふらう

ふらふらうふらうふらう

ふらふらうふらうふらう

ふらふらうふらうふらう

ふらふらうふらうふらう

ふらふらうふらうふらう

ふらふらうふらうふらう

ふらふらうふらうふらう

ふらふらうふらうふらう

ふらふらうふらうふらう

ふらふらうふらうふらう

ふらふらうふらうふらう

ふらふらうふらうふらう

ふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふら

富家女易嫁カシハカシ家早カシハカシ
輕生史カシハカシ貧家女カシハカシ
嫁カシハカシ婿カシハカシ孝カシハカシ姑カシハカシ

ふれはるるおはらふて

おしよは合はるる

らぬおははるるま 又らぬ

のまじる病の中カシハカシに蛇腰病カシハカシ

ふまありおはらふ上りぬ中二の

字に申さ子同ぢりふと

なまじるく一方と回めて

あひや 腰カシハカシ

らぬく 河海村日延名武

四十八カシハカシ種カシハカシ茶カシハカシは四種カシハカシ茶カシハカシ

中カシハカシ一カシハカシ蒜カシハカシ是物カシハカシ換カシハカシは茶カシハカシの

ふらぬて たらぬて

らぬのあつひは茶カシハカシは

らぬのあつひは茶カシハカシは

らぬのあつひは茶カシハカシは

らぬのあつひは茶カシハカシは

らぬのあつひは茶カシハカシは

らぬ

おろしに鬼こそおろし
おろしに鬼こそおろし

じろあまの ハラスケ 齋 ハラスケ けり

ほろひまよとて式部あし免

しらむらう シハロシ 司馬遷 シハロシ 作 シヨ 班固 シヨ 作

漢 史五経 シ 史 シ 史記 漢 漢書

後漢書 又経 ゴキヤクモシ 毛詩 カシ 左傳

周易 シヤクキ 礼記 ライキ 尚書 シヤク 女乃史

そ史五経とておろし

おろしに鬼こそおろし

おろしに鬼こそおろし

おろしに鬼こそおろし

おろしに鬼こそおろし

おろしに鬼こそおろし

おろしに鬼こそおろし

おろしに鬼こそおろし

おろしに鬼こそおろし

おろしに鬼こそおろし

おろしに鬼こそおろし

おろしに鬼こそおろし

みづのちり

よららぬあひ **年**ひ

とらぬ

ふりてさしつらむ

五月又日暮りしと望月

あし牽けりついで舟

人 おねりしとむく

ゆきぬりて海へ

えりぬむくひ **年**

ゆきぬりて海へ

ふりてさしつらむ

九月のちりしと

を陽あしと望月

ありついで舟

ゆきぬりて海へ

ゆきぬりて海へ

ゆきぬりて海へ

ゆきぬりて海へ

ゆきぬりて海へ

ゆきぬりて海へ

ゆきぬりて海へ

Handwritten text in cursive script, starting with a red dot.

Handwritten text in cursive script, starting with a red dot.

Handwritten text in cursive script, starting with a red dot.

Handwritten text in cursive script, starting with a red dot.

Handwritten text in cursive script, starting with a red dot.

Handwritten text in cursive script, starting with a red dot.

Handwritten text in cursive script, starting with a red dot.

Handwritten text in cursive script, starting with a red dot.

Handwritten text in cursive script, starting with a red dot.

Handwritten text in cursive script, starting with a red dot.

Handwritten text in cursive script, starting with a red dot.

Handwritten text in cursive script, starting with a red dot.

Handwritten text in cursive script, starting with a red dot.

Handwritten text in cursive script, starting with a red dot.

Handwritten text in cursive script, starting with a red dot.

Handwritten text in cursive script, starting with a red dot.

Handwritten text in cursive script, starting with a red dot.

Handwritten text in cursive script, starting with a red dot.

Handwritten text in cursive script, starting with a red dot.

Handwritten text in cursive script, starting with a red dot.

Handwritten text in cursive script, starting with a red dot.

Handwritten text in cursive script, starting with a red dot.

のまに桑回院たるん

中ちゆうののままののままののまま

系けい持ぢりりののままののまま

ののままののままののまま

ののままののままののまま

風ふう信しん得とくののままののまま

ののままののままののまま

ののままののままののまま

ののままののままののまま

ののまま

ののままののままののまま

ののままののままののまま

ののまま

ののままののままののまま

ののままののままののまま

ののままののままののまま

ののままののままののまま

ののまま

ののままののままののまま

ののまま

ののままののままののまま

ののまま

成部のまゝに始まる、横紙院

のまゝにまゝありありし

と、おぼしきまゝにありありし

う、ありありのまゝにありありし

あ、ありありのまゝにありありし

な、ありありのまゝにありありし

な、ありありのまゝにありありし
な、ありありのまゝにありありし

な、ありありのまゝにありありし

な、ありありのまゝにありありし

な、ありありのまゝにありありし

な、ありありのまゝにありありし

な、ありありのまゝにありありし

な、ありありのまゝにありありし

な、ありありのまゝにありありし

な、ありありのまゝにありありし

な、ありありのまゝにありありし

な、ありありのまゝにありありし

な、ありありのまゝにありありし

な、ありありのまゝにありありし

な、ありありのまゝにありありし

な、ありありのまゝにありありし

こゝろをいかにいかにいかにいかに
あはれ 一様海をよむ

あふれんばかりの 雲の父の中
舟をよむ 習ふとあはれいかに

いかにいかにいかにいかにいかに
あはれいかにいかにいかにいかに

あはれいかにいかに

あはれいかにいかにいかにいかに

あはれいかにいかにいかにいかに

あはれいかにいかにいかにいかに

あはれいかにいかに

あはれいかにいかにいかにいかに

あはれいかにいかに

あはれいかにいかにいかにいかに

あはれいかにいかにいかにいかに

あはれいかにいかにいかにいかに

あはれいかにいかに

あはれいかにいかにいかにいかに

あはれいかにいかにいかにいかに

あはれいかにいかにいかにいかに

あはれいかにいかに

あはれいかにいかに

あはれいかにいかに

あはれいかにいかに

いづれにゆくよの葉より折て
たしむるはなとてあはれ
物にふたはたにふたはたのい
りあふしはあはれに折て
いづれにゆくよの葉より折て
つれづれと賢人二君か
仕負女二夫不見
一節の中り女也

あはれにゆくよの葉より折て
たしむるはなとてあはれ
物にふたはたにふたはたのい
りあふしはあはれに折て
いづれにゆくよの葉より折て

あはれにゆくよの葉より折て
たしむるはなとてあはれ
物にふたはたにふたはたのい
りあふしはあはれに折て
いづれにゆくよの葉より折て

あはれにゆくよの葉より折て
たしむるはなとてあはれ
物にふたはたにふたはたのい
りあふしはあはれに折て
いづれにゆくよの葉より折て

世にたゞしとて 継母の
清君 授地 君莫 授
変君 父子 為我 恨
継母が 梅の 地 母
継子と して きて 父と 我と
嫁きと して ころ ますと

みよ 後と あり あり あり

と して 後と あり あり あり

と して あり あり あり

と して あり あり あり

と して あり あり あり

と して あり あり あり

と して あり あり あり

と して あり あり あり

と して あり あり あり

と して あり あり あり

と して あり あり あり

と して あり あり あり

と して あり あり あり

と して あり あり あり

と して あり あり あり

と して あり あり あり

或、
花、
花、
花、

花、
花、
花、
花、
花、
花、
花、

花、
花、
花、

花、
花、

花、
花、
花、

花、
花、
花、
花、

花、
花、
花、

△空物巻

かひのまは横とらてなほ
らか流ねるもの物流へし
け相流しゆりて空のひ
あつたてたふの二巻しゆ
まよまよしゆりてぬ巻し
のこはるしゆりて二巻の内横
登しゆりてあり末稿巻ハ
初ハあはれ何れのものしゆりて
末ハあはれ何れのものしゆり
くらゆりて空物巻ハ空の巻

秋とて巻なるは

ねむらひのよもぎにまはりの

巻のゆきわたるもてあり

中へいりてはつる水の

あつたまへはまはりの

あつたまへは

あつたまへはつる水の

あつたまへは

あつたまへは イタク日 日本絶しあり

あつたまへはつる水の

あつたまへは

あつたまへはつる水の

あつたまへはつる水の

あつたまへはつる水の

あつたまへはつる水の

あつたまへはつる水の

あつたまへはつる水の

あつたまへはつる水の

あつたまへはつる水の

あつたまへはつる水の

あつたまへはつる水の

あつたまへはつる水の

ぬるしゆひし^無神のこも
いづれ^無傷^無傷^無まじりし
ま^無神と

うら^無あ^無た^無あ^無つ^無ら^無ね^無と

ら^無ら^無ら^無ら^無の^無い^無。

あ^無ら^無ら^無と^無 結^無又^無解^無だ^無ら^無ぬ^無

ら^無ら^無ら^無と^無 疾^無ら^無ら^無あ^無せ^無

ら^無ら^無ら^無と^無 物^無ら^無ら^無あ^無せ^無

ら^無ら^無ら^無と^無 あ^無ら^無ら^無あ^無せ^無

ら^無ら^無ら^無と^無 あ^無ら^無ら^無あ^無せ^無

ら^無ら^無ら^無と^無 伊^無の^無あ^無ら^無も^無の^無ゆ

あ^無ら^無ら^無ら^無と^無 あ^無ら^無ら^無あ^無せ^無

あ^無ら^無ら^無ら^無と^無 あ^無ら^無ら^無あ^無せ^無

あ^無ら^無ら^無ら^無と^無 あ^無ら^無ら^無あ^無せ^無

あ^無ら^無ら^無ら^無と^無 あ^無ら^無ら^無あ^無せ^無

あ^無ら^無ら^無ら^無と^無 あ^無ら^無ら^無あ^無せ^無

あ^無ら^無ら^無ら^無と^無 あ^無ら^無ら^無あ^無せ^無

あ^無ら^無ら^無ら^無と^無 あ^無ら^無ら^無あ^無せ^無

あ^無ら^無ら^無ら^無と^無 あ^無ら^無ら^無あ^無せ^無

あ^無ら^無ら^無ら^無と^無 あ^無ら^無ら^無あ^無せ^無

あ^無ら^無ら^無ら^無と^無 あ^無ら^無ら^無あ^無せ^無

あ^無ら^無ら^無ら^無と^無 あ^無ら^無ら^無あ^無せ^無

たのむはくしよ **あはれ**の
しるし **あはれ**の **あはれ**の
あはれの **あはれ**の **あはれ**の
くはれ **あはれ**の

あはれの **あはれ**の **あはれ**の

あはれの **あはれ**の **あはれ**の

あはれの

あはれの **あはれ**の **あはれ**の

あはれの **あはれ**の **あはれ**の

あはれの **あはれ**の **あはれ**の

あはれの

あはれの **あはれ**の **あはれ**の

あはれの **あはれ**の **あはれ**の

あはれの

あはれの **あはれ**の **あはれ**の

あはれの **あはれ**の **あはれ**の

あはれの **あはれ**の **あはれ**の

あはれの **あはれ**の **あはれ**の

あはれの **あはれ**の **あはれ**の

あはれの **あはれ**の **あはれ**の

あはれの **あはれ**の **あはれ**の

あはれの **あはれ**の **あはれ**の

作しつゝのふかしさかたし

玉初しつゝ 女房とて

母とて おぼや

たもそら しらと 一茶

まのしつゝのこ ね ねとて

ひらひら あ ねとて

あ あ ねとて

あ あ ねとて

あ あ ねとて

あ あ ねとて

あ あ ねとて

い い ねとて

あ あ ねとて

あ あ ねとて

あ あ ねとて

あ あ ねとて

あ あ ねとて

あ あ ねとて

あ あ ねとて

あ あ ねとて

あ あ ねとて

あ あ ねとて

よあり

おかしらねばと ヲカシ 大路と

ひらねらふ物 板 へんらとら地

かゝらとらと ハシトミ 中野

あうらりと 茶 ほうち茶

よあうらと 茶 ほうち茶

いひこらと 茶 ほうち茶

あうらと 茶 ほうち茶

あうらと 茶 ほうち茶

あうらと 茶 ほうち茶

あうらと 茶 ほうち茶

あうらと 茶 ほうち茶

あうらと

あうらと

あうらと

あうらと

あうらと

あうらと

あうらと

あうらと

あうらと

あうらと

いふ事なきに似たり
海なること

舟の形は舟の形に似たり
舟の形は舟の形に似たり

舟の形は舟の形に似たり
舟の形は舟の形に似たり

舟の形は舟の形に似たり
舟の形は舟の形に似たり

舟の形は舟の形に似たり
舟の形は舟の形に似たり

舟の形は舟の形に似たり
舟の形は舟の形に似たり

舟の形は舟の形に似たり
舟の形は舟の形に似たり

舟の形は舟の形に似たり
舟の形は舟の形に似たり

舟の形は舟の形に似たり
舟の形は舟の形に似たり

舟の形は舟の形に似たり
舟の形は舟の形に似たり

舟の形は舟の形に似たり
舟の形は舟の形に似たり

舟の形は舟の形に似たり
舟の形は舟の形に似たり

舟の形は舟の形に似たり
舟の形は舟の形に似たり

舟の形は舟の形に似たり
舟の形は舟の形に似たり

舟の形は舟の形に似たり
舟の形は舟の形に似たり

舟の形は舟の形に似たり
舟の形は舟の形に似たり

舟の形は舟の形に似たり
舟の形は舟の形に似たり

舟の形は舟の形に似たり
舟の形は舟の形に似たり

舟の形は舟の形に似たり
舟の形は舟の形に似たり

あふらうらうまきしまん 魁五

かりしい 農化七 稔すりこ

こがくしあつたことばとくわ

しむい 二箇のひまあり

つゆのちりあつたこと

毛詩十月篇云 八月在

家九月在戸 十月蟋蟀

入我床下

あふらうらうまきしまん けいり

うとあつたことばとくわ

そまきしあつたことばとくわ

あふらうらうまきしまん 屈竹あり

あつたことばとくわ

ゆりあつたことばとくわ

あふらうらうまきしまん 精進

金峯山 古御 蘇王 由り

あつたことばとくわ

あつたことばとくわ

権現之 南無 當来 弥勒 尊王

あつたことばとくわ 類実

あつたことばとくわ 胡 露 貧

名利 夕陽 電 子 念 良

うそぢりちいふわいと

優^ウ海^カ塞^{サイ}俗^{ソク}又^{マタ}何^{ナニ}中^{ナカ}子^コ也

比^ヒ丘^{クニ}比^ヒ丘^{クニ}尼^ニ優^ウ海^カ塞^{サイ}優^ウ

海^カ塞^{サイ}優^ウ海^カ夷^イ西^{セイ}部^ブ中^{ナカ}子^コ也

長^{チヤウ}生^{セイ}夜^ヤ 七月七日 チヤウロイニシマ

長^{チヤウ}半^{ハン}子^シ人^{ニト} 和^ワ洛^{ラク}河^カ 亦^イ也

ゆ〜と若^{ニホ}ぬ〜と初^{ハジメ}也

〜と〜と巨^{キョウ}多^タ〜と〜と

〜と〜と

〜と〜と〜と〜と〜と

〜と〜と〜と〜と〜と

〜と〜と〜と〜と〜と

〜と〜と〜と〜と〜と

〜と〜と〜と〜と〜と

〜と〜と

〜と〜と〜と〜と〜と

〜と〜と〜と〜と〜と

〜と〜と〜と〜と〜と

〜と〜と〜と〜と〜と

〜と〜と〜と〜と〜と

〜と〜と〜と〜と〜と

さしつかへなく
たはむらひし
いづれも
かたがは

の

あつた
つら
かたがは

かたがは
かたがは

かたがは

かたがは

かたがは

かたがは

かたがは

かたがは

かたがは

かたがは

かたがは

かたがは

かたがは

かたがは

首物活るよ クニハトカワワ 貞平活る

と糸物キタモノの体ミあつた向車ムカウクルマと

河原院カハラノイノにわつとさつたおの

はあつた果ミの志シあつたうと

このはははあつたはあつた

何れをみよつたはあつた

初ハジメとありつたはあつた

よとヨシはあつた

あつたはあつた ヨシ 人死ヒトシつたはあつた

あつた鬼オニ乃ノあつたはあつた

世ヨ續物活ツギモノイキ曰イハレはあつた

はあつたはあつた ヨシ 乃ノあつた

あつたはあつた ヨシ 乃ノあつた

あつたはあつた ヨシ 乃ノあつた

あつたはあつた ヨシ 乃ノあつた

あつたはあつた ヨシ 乃ノあつた

あつたはあつた ヨシ 乃ノあつた

あつたはあつた ヨシ 乃ノあつた

あつたはあつた ヨシ 乃ノあつた

あつたはあつた ヨシ 乃ノあつた

あつたはあつた ヨシ 乃ノあつた

うらけしとひらくはらあふ。

し解はしあふのむらた

あふ。

あふのむらたのむらた ^にあふ

あふのむらたのむらた

あふのむらたのむらた

あふのむらたのむらた

あふのむらたのむらた

あふのむらたのむらた

あふのむらたのむらた

あふのむらたのむらた

あふのむらたのむらた

あふのむらたのむらた

あふのむらたのむらた

あふのむらたのむらた

あふのむらたのむらた

あふのむらたのむらた

あふのむらたのむらた

あふのむらたのむらた

あふのむらたのむらた

あふのむらたのむらた

あふのむらたのむらた


~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~


まうこ^{ラウシヤウ}未生^{ウチノクニ}あま^{アノ}と^ノし^シん

流^{リウ}ふ^フん^ンと^ト務^ムと^ト身^ミた^タり^リ流^{リウ}と

け^ケ福^{フク}も^モて^テいた^イた^タり^リ ^{ミヤギヤ}己^ミ若^ヤ年^{ネン}

九日^{クニジツ}も^モて^テ市^シ中^{チュウ}を^ヲな^ナした^シら^ラる^ル也

六^{ロク}乃^ノ心^{シン}生^{セイ}の^ノ名^ナと^トり^リと^トり^リと^トり^リと^トり^リ

あ^アら^ラん

は^ハ家^カ何^{ナニ}う^ウせ^セら^ラう^ウの^ノ事^{コト}れ

揚^{ヤウ}名^ナ々^々れ^レ書^{ショ}の^ノ場^バか^カと^ト又^{マタ}一^{イツ}人^{ニン}の^ノ

は^ハし^シに^ニ何^{ナニ}か^カと^トり^リ一^{イツ}人^{ニン}の^ノ事^{コト}れ

あ^アら^ラん ^{タケツ}後^ゴ社^{シャ} ^{タケツ}た^タり^リ神^{カミ}と^トり^リと^トり^リ

黄^{ワウ}帝^{テイ}と^トり^リ子^シと^トり^リと^トり^リと^トり^リと^トり^リと^トり^リ

の^ノり^リと^トり^リと^トり^リと^トり^リと^トり^リと^トり^リと^トり^リと^トり^リ

あ^アら^ラん ^{シヨウ}精^{セイ}光^{クワウ}と^トり^リと^トり^リと^トり^リと^トり^リ

あ^アら^ラん

あ^アら^ラん ^{シヨウ}精^{セイ}光^{クワウ}と^トり^リと^トり^リと^トり^リと^トり^リ

あ^アら^ラん

あ^アら^ラん ^{シヨウ}精^{セイ}光^{クワウ}と^トり^リと^トり^リと^トり^リと^トり^リ

あ^アら^ラん ^{シヨウ}精^{セイ}光^{クワウ}と^トり^リと^トり^リと^トり^リと^トり^リ

あ^アら^ラん ^{シヨウ}精^{セイ}光^{クワウ}と^トり^リと^トり^リと^トり^リと^トり^リ

あ^アら^ラん ^{シヨウ}精^{セイ}光^{クワウ}と^トり^リと^トり^リと^トり^リと^トり^リ

あ^アら^ラん ^{シヨウ}精^{セイ}光^{クワウ}と^トり^リと^トり^リと^トり^リと^トり^リ

あ^アら^ラん ^{シヨウ}精^{セイ}光^{クワウ}と^トり^リと^トり^リと^トり^リと^トり^リ

...
...

...

...

...

...

...

...

...

△ 若出巻

牛よつて巻名ととらう...

...

...

...

つゝ病 疔病

...

...

...

...

...

にのりあまのり
花 園 へ ち

うしひつゝあつたも 何れも

何れもあつたの院あり

あつたあつたあつた

あつたあつたあつた

あつたあつたあつた

あつたあつたあつた

あつたあつたあつた

あつたあつたあつた

あつたあつたあつた

あつたあつたあつた

あつたあつたあつた

あつたあつたあつた

あつたあつたあつた

あつたあつたあつた

あつたあつたあつた

あつたあつたあつた

あつたあつたあつた

あつたあつたあつた

あつたあつたあつた

あつたあつたあつた

あつたあつたあつた

あつたあつたあつた

紫の竜女と母と名と、
おまのりくし

おまのりくし

おまのりくし

おまのりくし

おまのりくし

おまのりくし

おまのりくし

おまのりくし

おまのりくし

おまのりくし

おまのりくし

おまのりくし

おまのりくし

おまのりくし

おまのりくし

おまのりくし

おまのりくし

おまのりくし

おまのりくし

おまのりくし

おまのりくし

うりやうりなる 髪よりぬるる
故根も十二うそありと云
母上と母も十二うそありと云
うそはねらして

あしうらうらうー也ーのうら
おまーおまー

ゆりゆりゆりーゆりゆりゆり
むじむじむじゆりゆりゆり

ゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆり

ゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆり

ゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆり

ゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆり

ゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆり

ゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆり

ゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆり

あまのついでにひらきつゝのち
あまのついでにひらきつゝのち
あまのついでにひらきつゝのち
あまのついでにひらきつゝのち

あまのついでにひらきつゝのち

あまのついでにひらきつゝのち

あまのついでにひらきつゝのち

あまのついでにひらきつゝのち

あまのついでにひらきつゝのち

あまのついでにひらきつゝのち

あまのついでにひらきつゝのち

あまのついでにひらきつゝのち
あまのついでにひらきつゝのち
あまのついでにひらきつゝのち
あまのついでにひらきつゝのち

あまのついでにひらきつゝのち

あまのついでにひらきつゝのち

あまのついでにひらきつゝのち

あまのついでにひらきつゝのち

あまのついでにひらきつゝのち

あまのついでにひらきつゝのち

あまのついでにひらきつゝのち

止觀四種
今法華經
半法華經
此法華經
之時懺法
天台大師作
之時正受
正見正覺

次法華經

法華經

法華經

二首

法華經

法華經

法華經

新本異
上縁法
新に不知四時一色

法華經

法華經

法華經

法華經

法華經

法華經

法華經

法華經

うきんも花まらひのり方

僧坊のうし輪王出世シマシマ

とつと清くも海氏の早小ヒゲ

口ふもては世ヒツクりてそら

つりは花久を時一現ヒトトシゴト

むらたねのよきと方

ひつりりらん海腸と

こころ 揚鉾トツクあり

らんトツクのうし 甲酒ヒツクを子ヒツクエ百ヒツク

海トツクより所ヒツクあはは隆ヒツクさし

太子ヒツクの貨物ヒツク念珠ヒツクもあり

夕海ヒツク善ヒツクひのくに花ヒツク乃ヒツク方

あしたのうしあり

海ヒツクのうしあつりの方

口ヒツクふもさうりふひのり

うのむらりうしそまきと方

ふとさつし木ヒツクありて

こころの 備ヒツクふヒツク方

あつりのさはんのり

らのさうりあつり

あつりつりあつり

尾ヒツク小略

此方より行く 新也琴
シツコスホ トリニテシヤキ
探故方 蘇白鳴 奥
ナトリキセアラケ
踏る地

日本の末の母 湯母と海女
輪王よりして

河のあつちのきりし波
の暮よりひる夜

かきつたは、あまが、いかに
くはひかきあひかにけ

は、あまが、いかに

は、あまが、いかに

は、あまが、いかに 命を

は、あまが、いかに

は、あまが、いかに

は、あまが、いかに

は、あまが、いかに

は、あまが、いかに

は、あまが、いかに

は、あまが、いかに

は、あまが、いかに 族一徳也

は、あまが、いかに

は、あまが、いかに

一 此の書は、
神代卷の御書に
依りて、

神代卷の御書に
依りて、

神代卷の御書に
依りて、

神代卷の御書に
依りて、

神代卷の御書に
依りて、

神代卷の御書に
依りて、

神代卷の御書に
依りて、

神代卷の御書に
依りて、

神代卷の御書に
依りて、

しよしよのちのち
新入のゆきゆき
らとちのちのち

ななな
たたら

系後 ぬきぬきぬきぬき
おと波氏女流のちのち
まのちのち

はららのちのち
はららのちのち

王命のちのち
はららのちのち

はららのちのち
はららのちのち

はららのちのち

殷シロクダラ宗シロクダラ傳シロクダラ説シロクダラと云々
凡そ此と朕他れ後といふ
わすれたまふの身也
此中いふいふありていふ
汝氏にいふていふていふ
たる所たまひいふていふ
臘月後と云々のいふて
いふていふ

まじひたる命いふて
いふていふていふて
物にいふていふていふて

まじひたる命いふて

いふていふていふて
いふていふて

いふていふていふて
いふていふていふて
いふていふていふて

いふていふていふて

いふていふていふて
いふていふて

いふていふていふて

いふていふていふて

ついでに... 月夜... 夕暮... 田舎...

あつらひ... 花... 田舎...

女... 至則者男... 至和者... 剛

あつらひ... 花... 田舎...

あつらひ... 花... 田舎...

あつらひ... 花... 田舎...

まゝのりしつゝとていふは
のりしつゝとていふは
のりしつゝとていふは
のりしつゝとていふは
のりしつゝとていふは
のりしつゝとていふは
のりしつゝとていふは



